

動物の診察室から

○ 9 ○

Tさんの愛犬、フレンチブルのロッタちゃんは、首から下がまひしたままです。病名は「脊髄空洞症」です。脊髄は脳からつながって、背骨の中を通っている太い神経ですが、その内部は簡単に表現すると「なる」というように空洞ができてしまう病気です。その空洞内に脊髄液が入り込み脊髄内部より圧迫があり、神経の症状が起きてしまいます。

ロッタちゃんはまだ、八歳の女の子です。五月の末に腰の痛みから急速に首の痛みへと進行し、立つことができなくなり

ました。生命の危険があったために急ぎよ東京へ連れて行き、磁気共鳴画像装置(MRI)の検査を受け、獣医大学の外科で診察してもらいました。

その結果が、脊髄空洞症で、外科的な対応も難しいとのことでした。内科的な治療としては、

ロッタ、1日でも長く生きて

家族と共に難病と闘う



脳圧を下げる薬を飲むロッタちゃん

い、ロッタちゃんは、昼間病院で脳圧を下げる点滴を受けながらTさんの迎えを待っています。そのまま、おしっこも自分ではうまくだきません。目だけでTさんに話しかけています。Tさんは、今日もロッタちゃんの体をなで、じっと目を見て話しかけていました。「ロッタ、1日でも長く生きてねー!」。

脊髄内圧を下げる脊髄の炎症をとることで、その日から、脳圧を下げる治療が始まりました。

Tさん家族はとてもロッタちゃんをかわいがっています。Tさんは、毎朝仕事の前にバスで病院へロッタちゃんを連れてきます。そして、Tさんは自転車で仕事場に向か

